

早稲田大学入学式祝辞

坂井 利郎

初めまして、1970年卒、紹介頂きました坂井利郎でございます。

皆さん、ご入学おめでとうございます。昨年からのこの新型コロナ禍で一生忘れる事の出来ないこの入学式になる事でしょう！

私にとっても皆様と一緒に早稲田大学スポーツ功労者としての表彰を受け、大変光栄に思います。私のテニス人生は、60年に及びます。

早稲田大学に入学して、歴史と伝統を誇る庭球部で素晴らしい時間を過ごす事が出来ました。そうそうたる先輩方に心・技・体すべてにわたり指導して頂きました。現在のリーガロイヤルホテル（大隈講堂裏）のところに6面のテニスコートがあって、大隈講堂の鐘の音で毎日の練習と授業に活動しておりました。（夏場の深夜までの水撒きとか、懐かしい思い出です。）

人生初の海外遠征は、大学2年生の冬オーストラリアでありました。日本テニス協会から若手有望選手として派遣留学を2ヶ月間させて頂きました。

そこで、世界のトップの指導者から、初体験の芝生コートで連日特訓練習を受けました。お蔭で帰国後、全日本大会で優勝し、デビスカップ韓国戦シングルスに抜てきされ、勝って一皮も二皮も成長する事が出来ました。

デビスカップは、サッカーの世界カップにあたる、最も権威がある国を代表して戦う対抗戦であります。1971年には、世界トップの強豪国オーストラリア戦、2対2の後の最終シングルスマッチ私の試合に両国の勝利がかかりました。現上皇・上皇后両陛下ご観戦のもと、2日間に亘る熱戦に勝利し、50年振りの日本勝利に貢献する事が出来ました。

その翌年には、世界最古のテニス大会ロンドンでのウィンブルドン、夢の舞台センターコートで世界No.1のルーマニアナスターセ選手と対戦する幸運にも恵まれました。その様な檜舞台でプレー出来た一方で、数え切れない程、悔しい敗戦・挫折も経験致しました。

その都度、ここ早稲田の先輩方、先生方の応援とサポートを頂き、お蔭で乗り越える事が出来ました。

この一球は、絶対無二の一球なり…で有名な庭球する心の銘文を残された福田雅之助先生、安藤更生部長等から、様々な技術指導以外にも人間としてのマナー・エチケットを教えて頂きました。

現在、ネット社会となってあらゆる世界の情報が瞬時に入ってくる。

私は、数えたら45ヶ国訪問しております。それぞれ歴史、文化、言語、食事、環境等が異なります。百聞は一見にしかず！皆さんは、是非英会話に励んで下さい！！もの凄く大切です！

早稲田のグローバルなカルチャーを身につけて、世界・地球規模で羽ばたき活躍して下さい！大きな夢を描き、抱くと共に、自らの足元を見詰めて自身を磨き鍛えて欲しいです。必死に取り組み、もがいていると…ヒラメキが生じます！私は、このヒラメキがものすごく重要だと感じました。自分自身の技術、メンタル、対戦相手との戦術、指導者としての指導のコツ、壁にぶつかり悩んだ時…ヒラメキで道が開けました。

悩み苦しむ必死に考えていると、ヒョンな事でヒラメキが浮かび上がります！！

それから何でも本物に接する事を心掛けて下さい！

美術、芸術、スポーツ、本物の持つ迫力は何か違います！現地に足を運び、自分の眼で感じて、広く眼を磨く事であります！眼力、心眼、審美眼という言葉があります。

本物に接する事で、心も気持ちも大きく広がり豊かになって行きます。

実るほど頭を垂れる稲穂かな！

これからの大学生活を実り多いものにして下さい！

この様な場で身に余る賞を戴き心から感謝申し上げ御礼の挨拶とさせていただきます。

本日は、おめでとうございます！！